

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【公表番号】特表2008-501779(P2008-501779A)

【公表日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-003

【出願番号】特願2007-526597(P2007-526597)

【国際特許分類】

C 0 7 C 381/12 (2006.01)

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/039 (2006.01)

H 0 1 L 21/027 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 381/12 C S P

G 0 3 F 7/004 5 0 3 A

G 0 3 F 7/039 6 0 1

H 0 1 L 21/30 5 0 2 R

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月25日(2008.4.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 1】

(メタ)アクリレートモノマー、環状オレフィンモノマー及び環状酸無水物の混合物を含むポリマー(なお、これらのモノマーについては上述した)を組み合わせるハイブリッドポリマーとすることもできる。環状オレフィンモノマーの例には、*t*-ブチルノルボルネンカルボキシレート(BNC)、ヒドロキシエチルノルボルネンカルボキシレート(HNC)、ノルボルネンカルボン酸(NC)、*t*-ブチルテトラシクロ[4.4.0.1.<sup>2,6</sup>1.<sup>7,10</sup>]ドデカン-8-エン-3-カルボキシレート、及び*t*-ブトキシカルボニルメチルテトラシクロ[4.4.0.1.<sup>2,6</sup>1.<sup>7,10</sup>]ドデカン-8-エン-3-カルボキシレートから選択されるものなどが挙げられる。ある場合には、環状オレフィンの好ましい例には、*t*-ブチルノルボルネンカルボキシレート(BNC)、ヒドロキシエチルノルボルネンカルボキシレート(HNC)、及びノルボルネンカルボン酸(NC)などが挙げられる。(メタ)アクリレートモノマーの例には、中でも、メパロノラクトンメタクリレート(MLMA)、2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート(MAdMA)、2-メチル-2-アダマンチルアクリレート(MAdA)、2-エチル-2-アダマンチルメタクリレート(EAdMA)、3,5-ジメチル-7-ヒドロキシアダマンチルメタクリレート(DMHAdMA)、イソアダマンチルメタクリレート、3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン(HAdMA)、3-ヒドロキシ-1-アダマンチルアクリレート(HAdA)、エチルシクロペンチルアクリレート(ECPA)、トリシクロ[5,2,1,0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イルメタクリレート(TCDMA)、3,5-ジヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン(DHAdMA)、-メタクリルオキシ- -ブチロラクトン、ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート- もしくは - (GBLMA; - もしくは -)、メタクリロイルオキシノルボルナンメタクリレート(MNBL)、及び -メタクリルオキシ- -ブチロラクトンから選択されるものなどが挙げられる。これらのモノマーを用いて生成されるポリマーの例には、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-2-エチル

-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co-  
 -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート)、ポリ(2-エチル-2-アダマンチルメタクリレ  
 ート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブチロラクトン  
 メタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メ  
 タクリルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート)、ポリ(t-ブ  
 チルノルボルネンカルボキシレート-co-無水マレイン酸-co-2-メチル-2-アダマンチルメ  
 タクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-co-メタクリロイルオキシノ  
 ルボルナンメタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒド  
 ロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-  
 co-トリシクロ [5,2,1,0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イルメタクリレート)、ポリ(2-エチル-2-アダマンチ  
 ルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-アダマンチルアクリレート-co- -ガンマ-ブチロ  
 ラクトンメタクリレート)、ポリ(2-エチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロ  
 キシ-1-アダマンチルアクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-co-トリ  
 シクロ [5,2,1,0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イルメタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメ  
 タクリレート-co-3,5-ジヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブ  
 チロラクトンメタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3,5-  
 ジメチル-7-ヒドロキシアダマンチルメタクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタ  
 クリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルアクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリ  
 ルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-  
 アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co-  
 -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-co-トリシクロ [5,2,1,0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イルメタク  
 リレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクト  
 ンメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン-co- エチルシクロ  
 ペンチルアクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキ  
 シ-1-アダマンチルアクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート)、ポリ(2-  
 -メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマン  
 タン-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-co-2-エチル-2-アダマンチルメタク  
 リレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリ  
 ルオキシアダマンタン-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレート-co-トリシクロ [5,  
 2,1,0<sup>2,6</sup>]デカ-8-イルメタクリレート)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチルメタクリレート-  
 co-2-エチル-2-アダマンチルメタクリレート-co- -ガンマ-ブチロラクトンメタクリレ  
 ート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン)、ポリ(2-メチル-2-アダマンチル  
 メタクリレート-co-2-エチル-2-アダマンチルメタクリレート-co- -ガンマ-ブチロラク  
 トンメタクリレート-co-3-ヒドロキシ-1-メタクリルオキシアダマンタン)などが挙げられ  
 る。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

例1 - 3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニルジメチルスルホニウムテトラフル  
 オロエトキシオクタフルオロブタンスルホネートの合成

3, 5-ジメチル-4-ヒドロキシフェニルジメチルスルホニウムクロライド(5g、  
 0.0229mol)を、適当な容器中で水150ml中に溶解した。テトラフルオロエト  
 キシオクタフルオロブタンスルホン酸リチウム(水中54.4%固形分で17.12g)  
 を室温で攪拌しながら加えた。この混合物を二時間攪拌し、そしてクロロホルムで抽出し  
 た。有機相を脱イオン水で洗浄し(4×200ml)、そして得られた有機(クロロホルム)  
 相を無水硫酸ナトリウム上で乾燥し、そして濾過した。減圧蒸発器でクロロホルムを  
 蒸発させた。有色の油状物が残った。この有色の油状物をヘキサンで数回洗浄した。収率

40%の油状物。 $^1\text{H}$  NMR (アセトン  $d_6$ ) : 2.35 (s, 6H,  $2\text{CH}_3$ ), 3.4 (s, 6H,  $2\text{CH}_3$ ), 6.9 - 7.25, 1H, 7.80 (s, 2H, 芳香族)。